

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892500075		
法人名	(株)ライフケアサービス		
事業所名	グループホーム喜楽		
所在地	常陸大宮市下伊勢畑948-8		
自己評価作成日	令和 2年 8月 14日	評価結果市町村受理日	令和 3年 6月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0892500075-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和2年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季豊かで、自然に囲まれた静かな環境にある施設です。9人定員の小さな施設ではありますがアットホームな施設です。食事は手作りで、機能・健康を重視し一人一人に合わせたお食事を提供しております。スタッフは明るくいつでもお話を聞いておしゃべりを楽しい施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな場所に立地し、日々、四季折々の移り変わりを楽しめる。1ユニット事業所であるため、利用者一人ひとりと職員はゆったりとした関係が作られている。職員間のコミュニケーションが良くとれていて、笑顔で支援に努めている。要望に応じて、在宅マッサージを受け入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	壁に貼りだされておりいつでも読めるようになっている	理念を事務室に掲示するとともに申し送り時に唱和して意識づけをしている。利用者の残存能力の活性化と今まで通りの地域との交流を大切に、職員・利用者が笑顔で信頼関係が保てるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事は少ないが草刈り等進んで参加し、回覧板回しは利用者と一緒に届けてくる	利用者と職員で回覧板を届けるなどして、地域住民と交流している。近隣住民から季節の野菜などの差し入れがあるような、環境作りに努めている。事業所は地域行事の花火大会への協賛を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム協議会で認知症カフェを開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、市、ご家族の意見交換をいかにせるようにより一層の努力をする	1年間開催されていない。	運営推進会議を2ヶ月1回、定期的開催し、地域・行政等と連携しながらサービス向上に活かす取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護グループとは家族を含め情報交換している	介護保険の更新等で行政窓口を訪問したり、生活保護受給者の担当窓口と連絡・相談をするほか生活相談員の受入を行っている。市のグループホーム協議会に入会し、勉強会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを行っている	職員は運営規定第9条を遵守し、拘束のない支援に努めている。身体拘束排除に関するマニュアルはあるが職員は研修を行うまでに至っていない。	身体拘束に関する勉強会を行い、全職員が身体拘束をしないケアを理解、実践するための取り組みを行うことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で注意を払い防止している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を使う方がまだいないため浸透してなく機会を持ち学んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書より説明し、家族の思い要望を確認し理解の上で契約書に署名捺印を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは積極的にお話をしている。意見要望は職員間で共有している	家族等が来訪の際に、積極的に話しかけ意見や要望が出やすい雰囲気づくりに努めている。家族等から意見が出た場合には事業所で話し合い、出来ることについては、即対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを大切にし、いつでも意見要望提案を聞き入れ出来るように努め反映している	普段から何でも話せる関係が築かれている。話し合い、感染予防のため、事業所内でのユニホーム着用を採用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の働き方考慮し、長く勤められるように配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量評価や勤務年数等々に応じた研修を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会等参加し情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活出来るよう要望を確認し本人の気持ちを受け止めるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して入所出来るよう、思いや不安を聞き入れ両方の理解を深め、よき関係を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要とされている事を見極めサービスに取り組みようになっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	先人であることを尊重し、その上で会話を楽しみある時は教わり、声掛けに工夫をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状の様子、こちらの思いを伝えて家族様の同じような思いで支援していることを伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本来であれば外出支援をしたいと思いますが現在は人との接触を遠慮して頂いております	入居時の聞き取りや家族等から、また日々の会話の中から把握している。職員と馴染みの漬物屋等買い物に出かけている。利用者の思いを家族等に伝え家族等が同行して外出、外食や親戚の家に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに褒めあう関係が出来ており、孤立化しないよう平等に支えあえることを重視している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族のいる方は継続的に連絡また行き来をし相談を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、願いを聞き入れ対応している。食べたいものや要望があれば対応している。把握が困難の場合は表情や仕草でわかっただけで対応している	入居時の聴き取りで知りえた事を記録に残し、日々のケアを通じて知りえたことも業務日誌に記録し、利用者の変化を職員で共有して本人の希望や要望に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に聞き取り確認はしているが日常生活の中でも把握できるようつとめている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のリズムを大切に無理のない現状の生活が長く出来るよう把握し努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の来訪時には話をし介護計画の作成に要望を取り入れている	家族等の要望を基に、管理者、計画作成責任者、職員で計画を作成している。半年ごとにモニタリングを行い、基本1年で見直しを行っている。利用者の状況に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の生活の様子や本人の言葉を記録し職員間で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診等家族に変わり支援している。欲しい物等の買い物と一緒にいたりたのまれたりと支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々の協力もあり地場の産物を季節感を感じながら頂いている。また楽しんで生活出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は家族と本人の希望を大切に、病気の経緯がわかるかかりつけ医への通院としている。病院との連携も大切にし緊急時の電話等の対応など適切な医療を受けられるよう支援している	入居契約時に、かかりつけ医への継続受診を説明し、受診している。家族が付き添う際には、日々の状態を文書にして、持参してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、状況・状態に合わせた確かな判断が出来るよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はサマリーをだし医療機関との情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に施設での方針は説明し理解して頂いております	「重度化・看取りに関する説明及び同意書」があり、看取りを行わないことを明記して同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時緊急マニュアルに沿っての連絡する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今以上に近隣住民との協力体制を築いて行けるようにする	避難訓練は年1回にとどまり、夜間想定は実施していない。災害に備えた備蓄品を一覧表を作成して管理している。近隣住民へは協力の呼びかけを行っている。	年2回の避難訓練の実施と夜間想定訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーは部屋での会話を促し人格を尊重して言葉かけに気を付けている	人生の先輩として位置付けて、言葉遣い等に留意している。個人情報に関する同意書と肖像権に関する同意書を整備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決定を促し意思表示の困難な場合は表情や仕草で把握出来るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを選んでもらっている。さりげないアドバイスをするなどして支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月の行事に合わせたメニュー、一人一人に合わせたムース食・刻み食・やわらか食を出している。負担のかからない事は一緒に行うようにしている	食材は宅配業者から購入し、職員が調理して提供している。近隣住民からの野菜の差し入れは、もう一品に調理され、食事を賑やかにしている。利用者の嚥下状態に合わせて刻み食やペースト食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回記録し職員間での把握が出来るようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、入れ歯のお手入れ等声掛けし支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の様子を観察し状態に合わせた対応、声掛けをトイレ誘導を行い出来るだけトイレでの排泄を支援している	利用者の排泄パターンを把握し誘導して、昼間は全員トイレでの排泄に努めている。失敗した時などは、必ず温めた布で拭いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を改善するため水分補給や軽い運動を促し、また温タオルでのマッサージを行い自発排便出来るよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎回香りや色や季節感を楽しめるように入浴剤を使用している。曜日は決まっているが一人一人の希望、状態の確認の上で行っている	入浴は基本週2回、午前中としているが、利用者の意向に沿っていつでも入れるよう支援している。季節を楽しむためにゆず湯、しょうぶ湯を実施している。褥瘡は絶対に作らないよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを大切に、また体調合わせ声掛けながら安心して休んだり快眠出来る様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬ファイルでの保管をしている。また間違いなく服用しているか一度ごとに確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと出来る事を把握しまたしたい事等の理解をし本人尊重での支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行ったりする。今は外出は出来るだけ自粛して頂いている	事業所周辺を季節を感じながら、車椅子の利用者も一緒に散歩している。コンビニエンスストアや近隣の商業施設に洋服などの買い物や回転ずしの外食に出かけ、自己判断が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額ではあるが家族からの金銭を預かり欲しい物等必要な際には買い物をしている。金銭出納帳をつけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時は支援し、電話はプライバシーの配慮にて自室での使用としている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節感のある飾り付けを心掛けている。作品も出来るだけ飾り見る楽しみとして飾っております	事業所は木のぬくもりが感じられ、落ち着いた空間になっている。共用空間は、温度管理がこまめになされ、季節の花が飾られ、寛げる場所になっている。季節に合わせた飾りつけや、利用者の作成した作品も飾られ、大きな窓から外の景色が良く見えて、四季を楽しめるよう、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ鑑賞したりお話をしたり塗り絵をしたり、自由な時間が過ごせるようスペースを提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力も得、本人のお気に入り物や写真、置物、作品等置いたり飾りと自由にしている	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。利用者のお気に入りのも、馴染みのものを持参して、自宅と同様に過ごせるようにと説明し、持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札をつけ自分での確認が出来るようにしてある		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム喜楽

作成日 令和 年 月 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策 砂防ダム、河川堤防の整備などの進んでいるが施設敷地内の囲み（塀）の整備	ブロック塀の整備	豪雨災害台風時に備えられるような早目の整備	12ヶ月
2	23	思いや意向の把握	平等な上手な時間の取り方	今以上に周りに気を使い利用者様と接すること（勘違いや嫉妬を出来るだけなくす）	6ヶ月
3	40	食事を楽しめる支援	秋のイベント	蜜にならない青空の下で蕎麦会を開催したい	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。